

新座の観光地

自然資源



I 妙音沢特別緑地保全地区

妙音沢は、環境省が所管する「平成の名水百選」に選定された、栄一丁目にある約3.3ヘクタールの斜面林です。豊富な湧き水と東京、近郊では珍しいカタクリ、イリンソウ、さらにはミウオンサハタザクラといった貴重な山野草を見ることができ、多様で複雑な生態系を形成しています。今は木道が整備されており、快適な散歩を行うことができます。

II 柳瀬川・黒目川

柳瀬川は、新座市の北西部境を流れ、狭山丘陵内の狭山湖地下に水源をもち、志木市で新河岸川に注ぐ全長20km程の一級河川です。流域には縄文時代の痕跡が40箇所ほどあり、柳瀬川がいかにより古代人の生活の支えになっていったかが分かります。

黒目川は、東京都東久留米市柳窪付近に水源を発し、落合川と合流する全長約17km程の一級河川です。こちらにも流域に先人たちの遺跡が残されており、その恵まれた自然は見どころの一つでもあります。

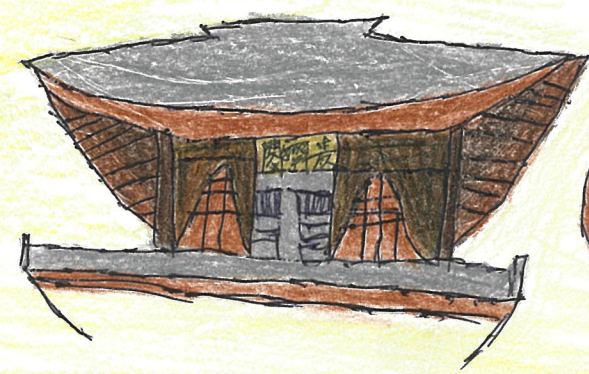
人文資源

III 大和田水川神社

新座市最古の神社の一つにして、延暦21(802)年に創建されたと伝えられる神社です。本堂は一間四方の入母屋造りで、周囲の壁面には見事な彫刻が施されています。7月の夏祭りには「裸神輿」が担ぎ出されたり、大和田囃子といわれている地域の人々によって奉納される伝統芸能が行われたりします。

IV 金鳳山平林寺

平林寺は、永和元年(1375)、およそ650年程前の南北朝時代、武蔵国埼玉郡、現在のさいたま市岩槻区に創建されました。その後、豊臣秀吉の小田原征伐の戦禍を受け、ほとんどが焼けるも、徳川家康に土地と資金を寄進され、後に寛文3年(1663)に岩槻にあった平林寺は野火止に移転します。その後、平林寺堀が引かれ、新田開発が進み、発展を遂げていきました。



金鳳山平林寺